

社会福祉法人県央福祉会

平成28年11月21日～25日

マレーシアスタディツアー 実践報告会

平成29年1月13日
18:30～20:30
於：法人会議室

スタディツアー 概要

マレーシアについて

国名: マレーシア

Malaysia



首都:クアラルンプール

人口:303万人(2015年現在)

面積:33万Km²(日本の約0.9倍)

民族構成:多民族国家

マレー系65%、中国系26%

インド系8%と先住民族

言語:マレー語(英語もよく通じる)

宗教:イスラム教が国教

仏教、ヒンドゥー教、キリスト教

気候:熱帯雨林気候

通貨単位:マレーシアリンギット(RM)

国民性:おおらかで寛容

おもてなしで迎え入れてくれる

現在:2020年までに先進国の仲間入りを目指す。(ワワサン2020)
そのため、貧富の差が生じてきている現状が伺える。

スタディーツアーの主旨

- ・マレーシアにおける福祉事情を学ぶ。
- ・学んだことを自分が勤務している事業所で活かす。
- ・県央福祉会の国際貢献として、今できること、これから取り組むべきことを学ぶ。
- ・異文化とふれあい、楽しむ。
- ・昨年度海外技術研修員として県央福祉会で研修したAzrulさんに会う。

このスタディーツアーには、
21名の法人職員が参加。
(Azrulさんの職場の方々と
記念撮影)



スタディツアーまでの準備

10.25 顔合わせ・研修事前学習会
・準備について

11.09 研修事前学習会
・出し物・お土産の打ち合わせ

11.15 研修事前学習会

- ・18:30～マレーシアについて(国・歴史・福祉・見学施設)
- ・19:30～スタディツアー質問
- ・19:45～スタディツアー今後のスケジュールなど
- ・20:30～スタディツアー出し物披露・練習
- ・20:25～理事長から

11.21 マレーシア視察旅行出発！！



スタディツアー行程-1

11.22 施設見学【5箇所】

- ①Pemulihan Dalam Komuniti(PDK Bedong)
障がい児者の通所・訪問施設
- ②Pusat Khdmat Setempat OKU, Bedong, Kedah
クダ州 障がい者ワンストップセンター
- ③Rumah Seri Kenangan Bedong, Kedah
クダ州 高齢者ホーム
- ④Bengkel Daya Sungai Petani, Kedah
障がい者の寮付き福祉工場
- ⑤Rumah Kanak-kanak(TamanBakti Pulau Pinang)
児童施設 ペナン州

11.23 施設見学【2箇所】

- ①Pusat Latihan Perindustrian dan Pemulihan(PLPP)
障がい者のリハビリテーションセンター
- ②NGO United Voice, Petaling Jaya, Selangor
知的障がい者の通所・権利擁護施設

スタディツアー行程-2

11.24 午前:クアラルンプール市内見学【王宮・博物館・独立広場】
午後:自由行動【買い物・バトゥー洞窟など】

11.25 帰国(機内泊)

12.2 マレーシア視察旅行反省会

12.9 視察旅行レポート提出日

本日

1.13 実践報告会

今後の予定

2.04 よこはま国際フォーラム2017にて発表



↑ 王宮
← 独立広場
↓ 国立
博物館



準備とJICAについて

渡航までの準備

- 1) 政府（JKM福祉局）の許可取得の確認
- 2) 最終行程の調整、確定
- 3) 法人の紹介パワーポイント作成
- 4) 各訪問施設の概要、取り組みなどの情報収集
- 5) 出し物（訪問受け入れのお礼、交流として）
- 6) お土産品（ 同 ）
- 7) 寄付金の贈呈先（児童養護施設、政府系以外の団体）を探す（国際貢献）

政府（JKM福祉局）の許可が下りない！
言語の壁、文化の違い

ビーフンおもてなし

「訪問する」ことって。。。。

「交流する」「貢献する」ことって。。。。

22日午前
PDK Bedong



22日午後
児童養護施設



23日午前
PLPP



数々の大切な縁と出会いの始まり

- 1) JETRO横浜（許可について、各施設に関する調査方法の相談）
- 2) 在マレーシア大使館（JKMの許可についてメールで相談 10/30）
- 3) JICAマレーシア 四方氏（同メール 11/4：訪問11/24午前）
- 4) JICAボランティア（11/8）
1日目の訪問先（PKS、PDK）でボランティアをされている方が、
JICA職員経由でスタディーツアーによる訪問を知り、連絡をくださった。
日本語の資料作成と、Azrulさんと共に受け入れ準備を進めてくださることに。
- 5) 修紅短期大学の白石先生（マレーシアの社会的養護について問合せメール11/15）
- 6) KL日本人会婦人部かとれあ会（寄付についてメール11/18：訪問11/24午後）

11月7日
JKM本部より
許可の通知が
メールで届く



そして、交流し、感謝を伝え、応援する。

事業所自慢の生産品詰め合わせ
(PDK Bedong)

準備・調整で走り回ってくれた、2015年度
の研修生 Azrul さんとの再会 (BDSPにて)

「上をむいて歩こう」を熱唱♪
障がい者の寮付き福祉工場 (BDSP)にて



パネルシアターで「カレーライス」の歌
エプロンシアターで「三匹のこぶた」のお話を披露

竹とんぼ、コマ、剣玉などの
おもちゃで子どもも交えて交流

JICAの草の根プロジェクトで
車いす製造技術を習得



お土産品：

- － 自主生産品：きらら (15,000円分)、菜の花 (10,000円分)、ふきのとう舎 (10,000円分)、ばらの里 (3,000円分)
- － 市販和小物：わーくす川崎 (3,000円分)
- － 手作り小物：折り紙製 携帯爪楊枝入れ

遊び道具：

力士こま、逆立ちこま、けん玉、竹とんぼ、迷路ゲーム、折り紙、ぬり絵、お手玉、あやとりゲーム

出し物：

パネルシアターで「カレーライス」(豚肉を鶏肉に変えて)の歌、エプロンシアターで「三匹のこぶた」のお話、「SUKIYAKI (上をむいて歩こう)」熱唱

寄付金使途

草の根支援をしている団体へ:

ユナイテッド・ヴォイスへ3万円、日本人会婦人部へ1万円をそれぞれ寄付

ユナイテッド・ヴォイス（セルフ・アドヴォカシー＝自己啓発を展開している団体）

Self Advocacy（自己啓発）とは …

- 自立することを学ぶこと
- 他人と付き合うことを学ぶこと
- 選択できることを学ぶこと
- 自分たちの権利を知ること
- 責任持つことを学ぶこと



売れる商品を作る、ジョブコーチング、仕事創出、雇用創出 I'm Possible

日本人会婦人部 かとれあ会 :

「2015年度チャリティーバザー寄付先は19か所、寄付金総額は RM160,000（純利益）

「NGO、キリスト教など民間などの団体は独自に活動を行っているため運用資金の調達が必須」

「政府からの補助などはないことはないが、キリスト教系の団体にも

“イスラム教のお祈り部屋の設置”が条件であることがほとんど。

「職場と同じ環境を施設へ導入し、職業訓練を実施するホテルもある」



見学先施設

障がい児者の通所・訪問施設-1

Pemulihan Dalam Komuniti(PDK Bedong) CBRセンター-Bedong

通学には学校長の許可が必要であり、通学困難な児童への教育の機会の提供、自立訓練などを行っている。



障がい児者の通所・訪問施設-2



おもてなしを受けながらのプレゼン。JICAボランティアスタッフからはマレーシアの福祉の現状なども聞くことができました。



障がい者ワンストップセンター

Pusat Khidmat Setempat OKU, Bedong, Kedah

障がい者の就労支援、アドボカシーの普及活動、生産活動等様々な活動・支援を提供している。



障がい者職業訓練・リハビリテーションセンター-1

Pusat Latihan Perindustrian dan Pemulihan (PLPP)

- ・1999年に業務開始。
- ・運営は国で福祉局に属している
- ・対象/内容: 身体障がい者に対し職業訓練と医療リハビリテーションを提供している。18歳~40歳の方が対象 マレー系が多い。
- ・利用費: 訓練生の負担なし。滞在費、食費、交通費は州が負担してくれる。毎月訓練手当が支給される。
- ・訓練期間: (6か月、1年、1年半)
- ・リハビリ数 男性70名 女性130名 2016年11月現在
(スタッフ: 管理者、事務員、カウンセラー、講師、外部インストラクター、PT/OT等)
- ・職業訓練コース内容: PC、家政、電気、マルチメディア、技師装具政策・車いす製造等
- ・入学: 毎年、入学希望者に対してセンターでの面接、各地方での地方福祉事務所との面接を行い、入学者を決定する。



おもてなし出たホワイト珈琲とビーフン



障がい者職業訓練・リハビリテーションセンター-2

施設内の様子①

共同部屋



ランニングマシンや
サイクリングもありました



自動車運転練習

施設内の様子②



義肢装具政策、車いす製作



まとめ/課題

- ◆日本にある障害者能力開発校とほぼ似ている施設でした。
- ◆違いとしては日本では3障がいの方が対象ですが、今回訪問したPLPPは身体障がいの方が対象でした。日本とほぼ同様、住み込みで訓練を受けており、部屋は共同部屋でエアコンはなく扇風機のみでした。
- ◆訓練機材は想像以上に整っており綺麗でしたが古い物も見られました。
- ◆訓練生への負担金はなく、その面は日本よりは優遇されていたと思いました。
- ◆今回丁度利用者の方達は休み時期に入っており訓練を行っている様子は見れませんでした。施設内はとても広く綺麗でした。

【PLPPの課題】・・・就職した後の暮らしは？

障がい者のニーズが見えない。

就職後の交通整備が整っていない。

現場で技術指導するインストラクターをPLPPが雇用しているが、彼らの身分は臨時的な雇用で不安定なので定着率が悪いとの事でした。

障がい者寮付き福祉工場(Azrulさん職場)-1

Bengkel Daya Sungai Petani, Kedah



Azrulさん



2003年より、働いて収入を得ることを目的に始められた施設で、利用する為にはいくつかの条件がある(18歳以上、知的・身体障がいの方、ADL自立など)。

3.5ヘクタールという広大な敷地の中に、居住する場所と仕事をする場所がある。

縫製・きのこ栽培・農業・調理など複数の作業種目がある。

一日の決められたスケジュールの中で活動している。



障がい者寮付き福祉工場(Azrulさん職場)-2

きのこ栽培



縫製



障がい者寮付き福祉工場(Azrulさん職場)-3

調理



クリーニング



障がい者寮付き福祉工場(Azrulさん職場)-4



- ◆日本にある神奈川能力開発センターと似ている機能をもっているように感じました。
- ◆クリーニングなど活動によっては、リーダーなど役割を設けてお客様とやりとりもあるなど実践的な場である印象を受けました。
- ◆ここから就労につながる方はどれくらいいるのだろうと思いました。



“上を向いて歩こう”
を歌いました！

知的障がい者通所・権利擁護施設-1

NGO United Voice, Petaling Jaya, Selangor



- ◆この事業所は、知的障がい者が運営している事業所です。
- ◆事業所における全ての業務について、当事者自らが話し合い、決定して実施しています。
- ◆障がいを持たない職員もいますが、あくまで当事者のサポートが業務です。

もちろん、当日のプレゼンを行うのも当事者です。少し恥ずかしがりながらも(笑)、とても立派に報告されていました。



知的障がい者通所・権利擁護施設-2



就労支援の他、様々な自主製品を作り、販売しています。



その他、アート活動にも力を入れています。右の絵は、全て当事者の力で描いた絵です。とても魅力のある絵ですね！

知的障がい者通所・権利擁護施設-3



もう一つ大きな活動は、セルフアドボカシー活動です。自分たちの生活する地域や行政に対して、更には世界各国や世界会議などでも活動を行っています。



↑
こちらでも、日本人のNGO職員が活躍していました！



児童施設-1

Rumah Kanak-kanak (Taman Bakti,Pulau Pinang)

日本で言う児童養護施設。

1969年に開所。

対象児童：3か月～12歳まで

現在は男児75名、女児57名が入所。

入所理由：80%が家庭の事情

(離婚・経済的問題・親が犯罪を犯した)

20%が孤児。

スタッフ：63名

28名は基本生活をみていて、

15名は精神面を見ている(親的役割)。

生活：5時半起床～22時就寝



児童施設-2



保育士メンバー3名で日本のパネルシアターとエプロンシアターを披露しました。
日本語で行いましたが、真似をして言葉を発してくれる子どももいました。

児童施設-3



真剣に見てくれています！
言葉は伝わらないけれど、興味を持って聞いている様子に一安心。
貴重な経験をさせていただきました。

児童施設-4



日本から子どもたちが喜びそうな玩具を持ち寄りました。
竹とんぼ・紙風船・けん玉・お手玉・折り紙など子どもたちは
大喜び。
ひと時の触れ合いを楽しみました。

兒童施設-5



児童施設-7

職場にて・・・

出発前



せんせい、マレーシアに行ってくるね！

〇〇くんがいたところ？

それは、ベトナムだよ！
マレーシアはここ。

帰国後



廊下に子どもたちにもわかりやすいように掲示をしました。

高齢者ホーム-1

Rumah Seri Kenangan Bedong, Kedah

目的:

貧困高齢者の福祉と生活のため、
ケア・治療・住まいを提供すること



高齢者ホーム-2

入所条件:

- ・60 歳以上の高齢者
- ・感染症に罹患していない
- ・家族・親族がいない
- ・定常的な住まいがない
- ・自立している など



JKM地域事務所長⇔国のJKM局長

空室状況を含め入所条件などに該当するかで審査・承認が行われる。

ホームレス型は、裁判所により入所措置が行われる。

高齢者ホーム-3



見学をとおして

◆特に印象に残ったこと◆

1.障がいに対する考え方

- ①人権意識や社会参加の意識が低い
障がいがある＝かわいそう
- ②教育を受けるハードルが高い
小学校に入るには条件がある
 - ・ADLの自立
 - ・指示が聞ける
 - ・その学校の校長先生の許可が必要!!
 - ・入学できても卒業後は・・・?
- ③家族もそれを受け入れてしまっている
 - ・学校に通えないのは仕方がない

マレーシア福祉の現状と課題 1-2

- ④ マレーシア自体が福祉のノウハウがない
→ イスラム教の相互扶助精神に基づいた
家族や地域での介護や支援に頼っている

PDKからの要望

- 最低でも4か月に1回はPDKに来て、利用者が楽しめる活動の手助けをしてほしい。(PDK Tanjung Bendahara)
- 障害児に応じた活動の手助けをしてほしい。
(PDK Telok Chengai, PDK Lunas, PDK Nur Bistari, PDK Bandar Baharu)
- 新しい教材や指導法を教えてほしい。(PDK Al Najah)
- 職員のために、教材や自立支援の方法の勉強会やワークショップの開催をしてほしい。(PDK Kulim, PDK Desa Aman)

ワークショップの開催



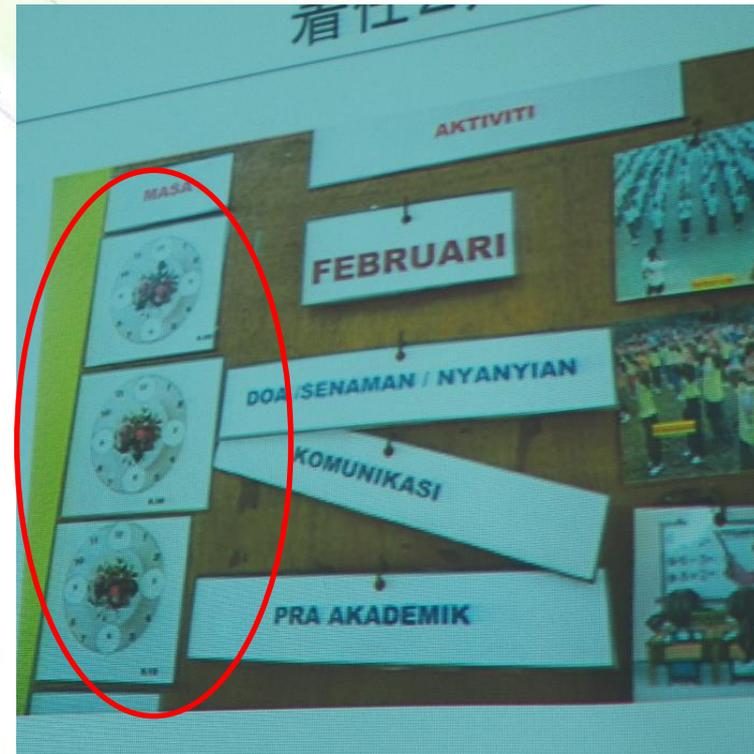
2. 支援技術と支援者の意識

実例～JICA植山さんの話～

- ・構造化されているものの…
時計に花柄…(赤丸内)→
→構造化の表面的な部分のみ
その意味や活用の仕方に課題

- ・各地のPDK職員に要望を聞いたものの要望が出てこない…
→現状の支援方法で満足している

- ・支援技術のノウハウも充分浸透していない!!



～マレーシア福祉の現状をみて～

課題

- ・福祉制度の充実
- ・支援技術の活用のノウハウ
- ・当事者や家族と国の意識

→そのような現状の中でも、現場を飛び回って先駆的に活動しているJICAボランティアさん達や現地の職員さん達にお会いできたことに、とても感銘を受けました。私たち県央福祉会は、幅広い分野で事業展開しており、協力できることがあると思います。



マレーシア福祉の現状と課題 2-1

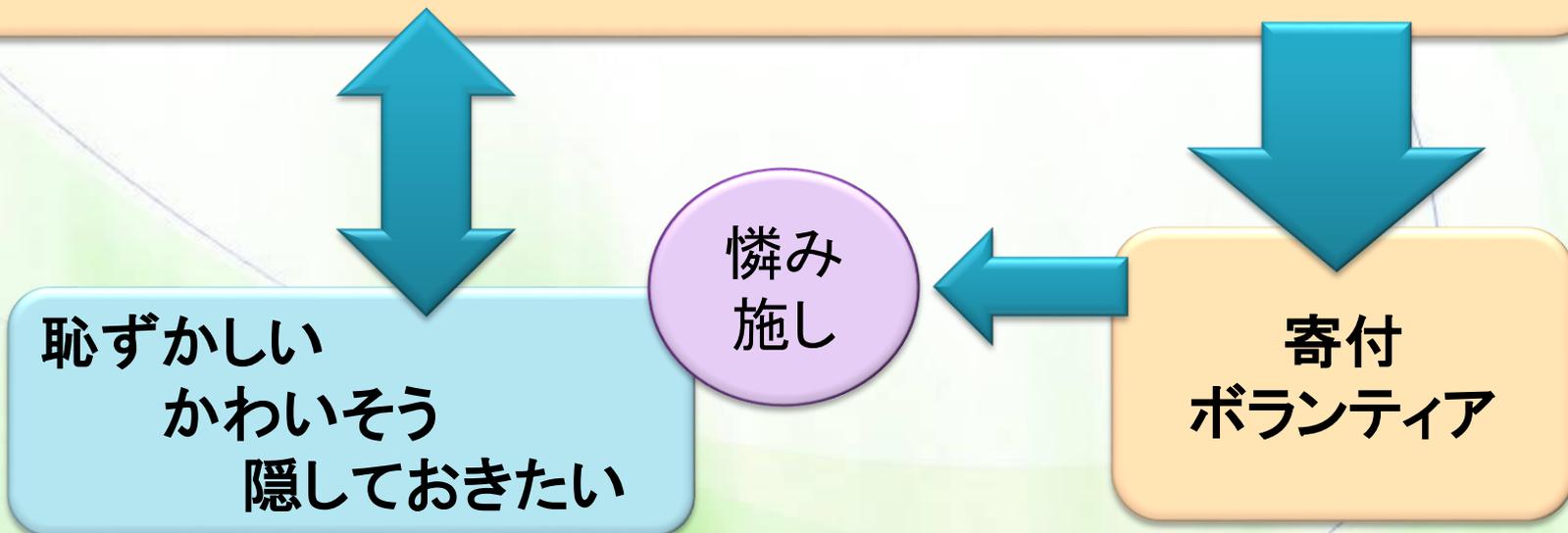
- ・マレーシアの障がい福祉
- ・障がい者を取りまく生活状況
 - ・障がい者人口
 - ・リハビリテーション
 - ・障がい者雇用
 - ・交通アクセス
 - ・JICAの存在



マレーシア福祉の現状と課題 2-2

* 多民族国家マレーシアの 「支えあう社会」とは？

- ①他者の福祉の認識とケアの精神の涵養
- ②相互援助活動の活発化と福祉活動の拡大
- ③社会内での善行の保持と良好な社会関係の醸成
- ④社会資源の開発と活用



マレーシア福祉の現状と課題 2-3

* 課題

- ・障がいに対しての理解がない
- ・支援の手が行き届かないところも
- ・特定の人種が優先されることも・・・
- ・障がい児・者が利用できるサービスが少ない
- ・福祉の管轄がはっきりしてない
- ・支援者の育成、支援技術の伝達が上手くない

参加者の
こえ



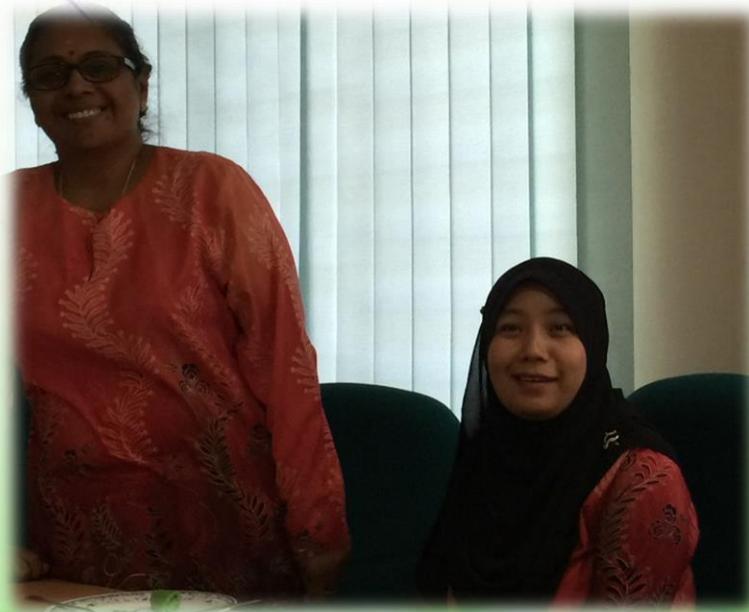
日本での支援に活かすこと-1

- ◆マレーシアでは、福祉の社会的な基盤がいまだ発展途上にあり、障がいに対する人びとの理解も十分とは言えません。それらが、障がいのある方々が社会参加を望む上での、大きな障壁になっています。
- ◆しかし、ツアー中に現地の職員の方々やJICAの方々のお話から感じたのは、『少しでも現状を良くしていきたい』という、前向きな“想い”でした。



日本での支援に活かすこと-2

- ◆マレーシアにあって日本に足りないもの、それは『心のゆとり』ではないか思います。“マレーシアタイム”という言葉が示す通り、マレーシアの人々はとてもおおらかでした。それは福祉の現場においても活かされており、時間的な余裕を持って支援にあたっていると感じました。



日本での支援に活かすこと-3

- ◆確かに日本はマレーシアに比べ、福祉のハード面は充実しています。しかし、それに甘んじてはいけなと思います。
- ◆私達は普段、つつい時間と業務に追われ、心のゆとりを失ってしまっていないでしょうか？現状に妥協し、流されていないでしょうか？
- ◆マレーシアの方々の前向きさ、向上心、現状を良くしようと取り組む姿勢は、是非とも見習うべき素晴らしいものであると感じました。
- ◆私達は、各々が自身について今一度振り返り、それらを日々の支援に活かしていく必要があると思います。

私たちがマレーシアに貢献できること-1

今回7つの福祉施設を訪問して、JICA(国際協力機構)ボランティアの関わりは非常に大きな力となっているように感じました。

人も...



障がい者
ワンストップセンター
西中さん



障がい者
ワンストップセンター
植山さん



NGOユナイテッド・
ヴォイス
須藤さん

物も...



障がい者職業訓
練・リハビリテー
ションセンター
PLPP

車いすを作成する
サービスの中にも
JICAの協力があ
ります。

私たちがマレーシアに貢献できること-2

JICAボランティアはどのような活動を...

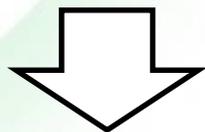
- ・就労の支援
[企業訪問や運転免許取得のサポート]
 - ・療育の支援
[親やスタッフへの指導、ワークショップ]
- ...etc

しかし、JICAボランティアにも多くの悩みや戸惑いが...

- ・現地では人権意識、問題意識が低い...
 - ・現地の文化や風習、制度との違い...
- ...etc

私たちがマレーシアに貢献できること-3

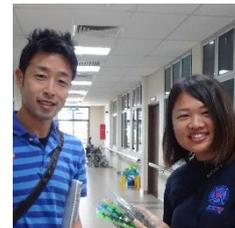
マレーシアの障がい者福祉が今後も発展していくためには
高い志をもって行動するJICAボランティアの協力は
不可欠なものであると思います



～私たちがマレーシアに貢献できること～

マレーシアの文化や制度を変えていくことはできませんが...

- ・私たちが培ってきた支援技術やツールを
JICAボランティアと共有する...
- ・現地の職員を留学生として受け入れ
ノウハウを伝えていく...



それら技術やノウハウは現地に合ったアレンジが必要かも知れませんが、現地の福祉発展の一助になればと思います